

「新山口駅周辺地区（2期）」都市再生整備計画 事後評価委員会
議事録

日時：令和3年3月16日（火） 13：30～15：00

場所：山口市役所 第11会議室

出席者

委員： 5名（委員A～Eと表記）

事務局： 8名

計13名

議事 1. 「新山口駅周辺地区（2期）」都市再生整備計画の事後評価について

協議（質疑）内容	
(委員B)	「情報板設置」とは、具体的にどのような情報を掲示するものか。
(事務局)	⇒ 北口では小郡の昔のまちなみをかたどった内容の案内を、南口では県外からの観光客をターゲットに、山口市内の観光に関する案内を検討している。その他、車での来訪者をターゲットに、駅周辺の駐車場等への案内を検討している。
(委員B)	「表口・新幹線口」は正式な呼称か。来訪者にとって分かりやすいものがよいのではないか。
(事務局)	⇒ 現在は「北口・南口」が一般的となっている。情報板への表記については、関係部署と調整を図り呼称を統一する。
(委員A)	⇒ 地域住民と議論の上、なじみやすい呼称を検討してみてはどうか。
(委員E)	情報板といっても、観光案内、施設案内を目的としたものがあるが、本計画の「情報板設置」はどちらを指すのか。
(事務局)	⇒ 本計画の「情報板設置」は観光案内を指す。施設案内についても、関係事業者と調整を図りながら整備・改善を進めている。
(委員A)	⇒ サイン（施設案内）と観光案内板は切り分けて考えるべきでは。
(事務局)	⇒ サインについては産業交流拠点施設の完成に伴い、再度見直しを行う予定である。また、観光案内についても、お知らせなどをより分かりやすく発信できるよう、切り分けて検討したい。
(委員C)	他市の観光地を案内するような機能もあるのか。
(事務局)	⇒ 3Fに観光案内所を設けており、最も情報が充実している。また、駅の改札口付近に大型ディスプレイがあるため、今後も情報発信のために活用していきたい。
(委員A)	唯一目標未達成である指標2「駅や主要なバス停での乗換え満足度」についてご意見いただきたい。
(委員B)	⇒ アンケート自体が新山口駅を対象としたものではなく、小郡地区住民を対象とした市全体における乗換え満足度なので、新山口駅に限定した調査を行うことでより具体的に効果の発現を確認できると思われる。
(事務局)	⇒ 山口市全体として、交通系ICカードの普及が未だ不十分であるということも満足度が低い要因と推測している。また、乗換え情報の案内方法についても改めて見直す必要があると考えている。
(事務局)	⇒ 「県の玄関口」という目標を掲げて進めている中、市全体の満足度が低

	いことは真摯に受け止め、改善につながるような施策を JR と連携し検討したい。
(委員D)	⇒ 一般の乗降場が北口に集約されたことも満足度が低い要因の一つではないか。
(事務局)	⇒ 現時点では不満の声は届いていない。
(委員D)	北口の駅前広場の範囲が住民に認識されていない。バス乗り場等も含め広場であるということを広く周知する必要がある。
(事務局)	⇒ バス乗り場、ロータリーも含め一体的に駅前広場であることを広く周知していきたい。また、産業交流拠点施設の完成に伴い、新たに案内板の設置を予定しているため、その中で改めて検討する。

議事 2. 今後のまちづくり方策 について

協議（質疑）内容	
(委員B)	スマートシティの推進にあたり、MaaS への取組は今後のまちづくりの視野に含まれているか。
(事務局)	⇒ 山口市としても MaaS 導入を進めており、専用アプリの開発等も行われているが、未完成な部分もあるため引き続き検討していく予定である。
(委員A)	⇒ 乗換え満足度向上のためにも、ソフト系の交通政策についてぜひ進めていただきたい。
(委員D)	「駅前広場のさらなる活用促進」とあるが、広場が中途半端な広さであり大型イベントは実施できない。その上でどう利用促進を図っていく予定か。
(事務局)	⇒ 今後、拠点施設周辺や唐樋川広場の整備と合わせ、一体的な利用による賑わい創出を図りたいと考える。
(委員C)	「たまり空間が創出され…」とあるが、たまり空間とはどこを指すのか。また「駐輪場の利便性が向上した」とあるが、整備された駐輪場には自転車が溢れかえっており、不足しているように感じる。
(事務局)	⇒ 北口の駅前広場をたまり空間と認識している。整備前にはイベントを行えるような空間が一切なかったが、今回の整備によりたまり空間を確保することができた。駐輪場については現在整備中であり、今後拡大する予定である。
(委員E)	計画区域には、商店街（大正通り）が含まれていないが、地元住民のまちに対する誇りや愛着を醸成するためには区域に含める必要があるのではない

	か。
(事務局)	⇒ 今回はハード整備等を行っていないため区域には含まれていないが、現在検討中の都市核づくりのマスタープランの中では、このエリアも市街地形成ゾーンに位置付けており、再開発事業に取り組むとともに、民間活力の活用による発展を期待している。
(委員A)	⇒ 現時点で具体的な展望は何かあるか。
(事務局)	⇒ 都市核づくりの中で、20年後の将来像を検討しているところである。まずは将来像を固め、それから具体的な施策を検討したい。
(委員D)	駅の北側を景観形成重点地区の指定に向け準備されていると思うが、それを踏まえたまちづくりについてどのように考えているか。
(事務局)	⇒ これまでワークショップを進めてきた中で、北側の旧市街地については様々な意見があり、明確な方向性が定まっていないため、現時点では指定区域には含めていない。内容としては、ゆとりを感じられる空間の形成、広告物の制限等を検討している。
(委員A)	⇒ “継承と革新”の折り合いをつけながら、まちづくりを進めていく必要がある。
	【総 評】
(委員B)	産業交流拠点施設でのイベント等により、大規模な集客が期待できるが、そのイベント後に来訪者をどこに誘客するかが課題である。広域な視点を持ってこれからのまちづくりを考えていく必要がある。
(委員C)	本事業によって、北口には産業交流拠点施設や駅前広場が整備されたが、北口には駐車場が少ない。今後、北口がさらに発展するためには、駐車場の整備も重要であると感じる。
(委員E)	地域住民にもっと興味を持っていただき、自然と巻き込んでいくような施策展開、まちなみ整備を図っていただきたい。
(委員D)	北口のにぎわい創出に向け、互いに連携しながら検討していきたい。また、小規模な駐車場の集約も今後のまちづくりの課題である。
(委員A)	産業交流拠点施設の整備を契機とし、「通過交通のまち」にとどまらないよう、まちに滞留させるような施策を戦略性をもって検討してもらいたい。